



龍門滝



広報

かじき

人口・世帯の動き

(平成5年11月1日現在)

総人口 23,480人(△11)	出生 20人
男 10,972人(△12)	死亡 16人
女 12,508人(1)	転入 86人
世帯数 8,490 (△12)	転出 101人

●()内は前月との比較●

題字 宇都宮町長

加治木から四人が出場

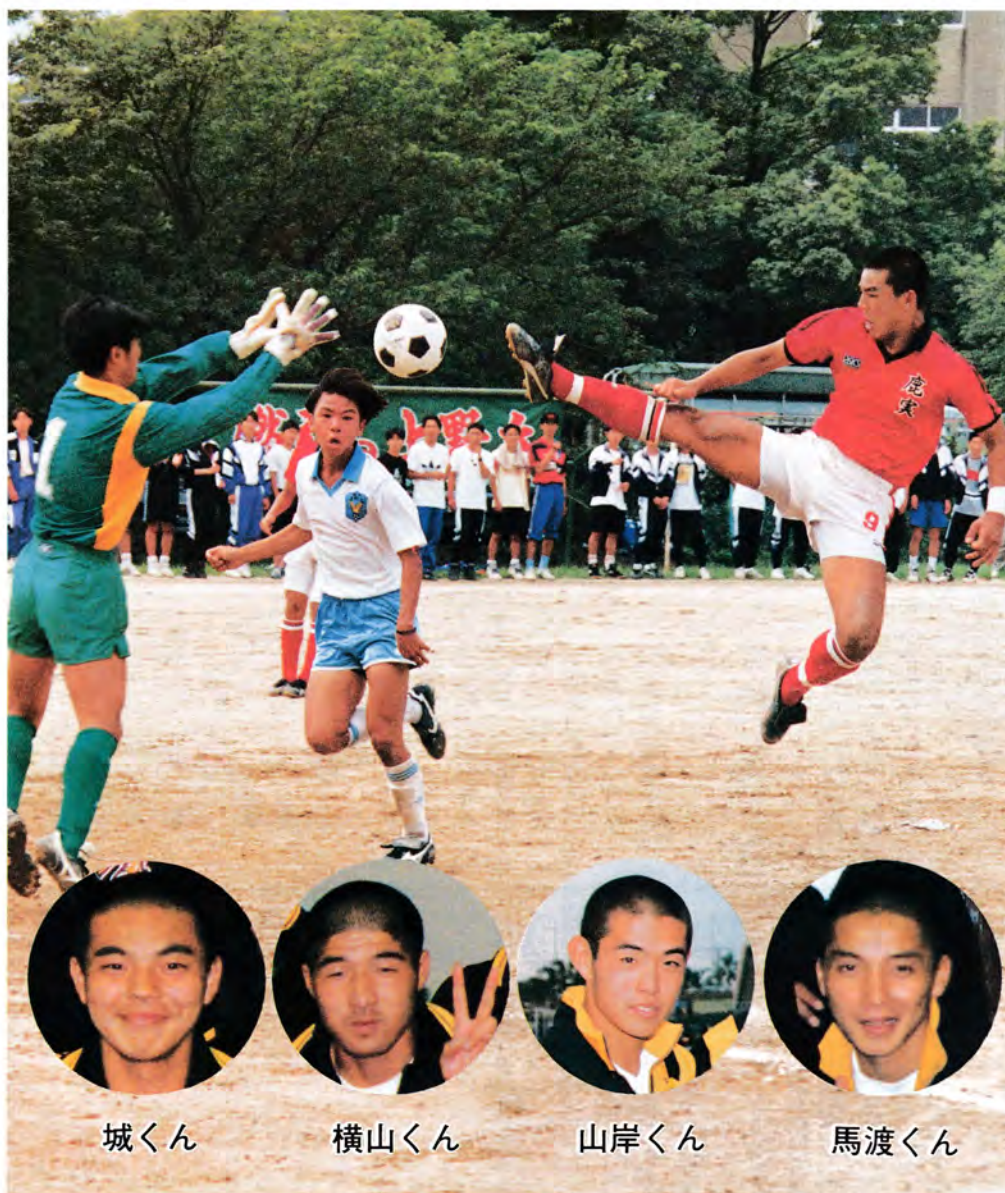
今やサッカーはJリーグで盛り上がり、国技的スポーツにまでなった。その応援もすさまじく熱狂的だ。そうした中、高校サッカー

のおもしろさはまた格別だ。

今年の全国大会には鹿児島実業が出場する。(開催日は正月の二日)

今年は特に強そうだ。それはレギュラーの中に、加治木中学校出身者が四人エントリーされているからだ。

メンバーは、鹿実サッカー部主将で高校界のスターFW 城彰二君(高井田)、MF横山博敏君(小鳥)、DF馬渡敏彦君(西塩入上)、同じくDF山岸圭介君(西反土後)。みなさん、テレビ観戦で絶大な応援を!



城くん

横山くん

山岸くん

馬渡くん

サッカーファンの目は、君たちのプレイにくぎづけ

今月のページ

☆初代名誉町民故佐藤八郎氏合同葬・東京加治木会総会……2頁 ☆椋鳩十文学記念館発表・秋の叙熱……3頁 ☆読書感想文最優秀賞作品紹介……4頁 ☆かじき秋まつり・町美展……5頁 ☆表彰・青年海外協力隊員参加……6頁 ☆かじがらす……7頁 ☆国保だより・親子読書紹介……8頁 ☆椋鳩十の本・加治木文化ウォッチング……9頁 ☆おしらせ……10頁

平成5年

12月号

●No. 470

発行 加治木町・編集 総務課 ☎ 62-2111 ●

遺徳をしのび

しめやかに合同葬

初代名誉町民 故佐藤八郎氏

加治木町初代名誉町民・故佐藤八郎氏の合同葬が十一月二十日、小里貞利衆議院議員をはじめ、おぜいの来賓や一般町民のかたがたが参列して福祉センターでしめやかに営まれました。

この日は、加治木町と加治木高校同窓会の合同葬として開催されましたが、会場は佐藤先生の遺徳をしのぶ四百人あまりの参列者であふれ、壇上に菊の花で飾られた

先生の遺影もうれしそうで、参列者はあらためて先生の残された偉業に敬意を表していました。

式典は、佐藤キミ子夫人ら遺族の方々に抱えられた遺影と遺骨の遺霊奉迎にはじまり、黙とう、宇都宮葬儀委員長の追悼のことは、佐藤先生のありし日の姿のビデオ放映に続き、七人の方による弔辞が述べられましたが、佐藤先生の竹馬の友、今や日本彫塑界の大御

所として知られる法元六郎氏が、佐藤先生との若き日の思い出をつづるように、遺影にとつとつと話しかけると、会場からは深いためいきがもれていました。

その後、おぜいの参列者による献花が行われましたが、遺影の前は先生の輝かしい遺業をたたえるように、菊花の香りと気品に満ちあふれていました。

故佐藤先生は、昨年十一月二十一日開催された町制施行八十周年記念式典の席上、先生の医学界おける偉大な業績に対し、加治木町初代名誉町民の称号を贈られたばかりでしたが、一年ほどその栄に浴され、平成五年十月二十一日永眠されました。心からご冥福をお祈りいたします。

〔主な功績〕

昭和28年 南日本文化賞受賞（フィラリア症駆除研究）

38年 日本寄生虫学会桂田賞受賞（フィラリア症の臨床と治療に関する研究）

43年 西日本文化賞受賞（ガンの基礎的並びに臨床的研究）

51年 日本対ガン協会賞受賞（胃集団検診の診断技術の向上）

53年 鹿児島県民表彰受賞（地域医療の充実発展の功績）

55年 勲二等瑞宝章授章
平成元年 結核予防功労者賞受賞
四年 加治木町名誉町民

東京飛ぶさと便



東京加治木会

総会

於里出身の壺岐健志さんからのお便りです。

平成五年度の東京加治木会犬童秀孝会長総会が十月十六日、例年通り品川区の三州倶楽部で行われました。

総会には約五十人の会員と、ふるさとからは宇都宮町長をはじめ、湯川総務課長、瀬戸口経済課長が出席。町長を囲んでの話し合いが二年ぶりとおあって、予定時間をはるかにオーバー、夕暮までつきませんでした。

とくに今回はこの夏、長雨に追い打ちをかけるように鹿児島地方を襲った豪雨と台風で大被害が続出、隣接の溝辺町で一時間に一〇四ミリの降雨量を記録、淹つばにいたるような大雨などで県内のいたるところの道路や日豊線が不通となり、一時は都市機能がマヒする状態でした。それだけに、会員たちは町長の説

明を食い入るように聞き、加治木の場合、他市町にくらべて被害が少なかつたことにみんなホッと胸をなでおろしました。また災害当時、東京のみなさんから激励の電話や手紙を多くいただきました。感謝します。いま町民の力を合わせて復興に精力を注いでいます、と力強く述べました。

次いで、質の高い新しい町づくりをめざして町長は次のように説明しました。

▽町文化会館は六年度着工予定で、平成五年度予算に七千七百万円の基本設計委託費を計上、約四十二億の予算のうち75%が起債。

▽空港からの県外客のうち、鹿児島、指宿、大隅方面への海上アクセスの拠点としての機能や鹿児島への通勤、通学者のための海上交通を積極的に導入。

▽龍門滝温泉がオープンして約十カ月で利用客が二十万人に達し、このうち25%が町外からの人たち。

なお、加治木会総会の初めに先に死亡された元会長の立山慶二氏86歳のごめい福を祈って全員で黙とうを捧げました。



おぜいの方に見守られて……



椋鳩十文学記念館

最優秀賞は

徳島県の尾形裕子さん

椋鳩十文学記念館賞

受賞者発表

第三回椋鳩十文学記念館賞全国読書感想文コンクールの発表が十一月二十九日行われ、最優秀賞には尾形裕子さん（徳島県中三年）が選ばれました。

今回は、学校応募六百七点、個人応募八十二点の合計六百八十九点のたくさん作品が寄せられましたが、四十七県中三十七県からの応募に、椋鳩十文学記念館賞が全国的に認められたと評価でき、関係者一同ホッと胸をなでおろしていました。

また、作品も年を数えるごとに向上し、▽課題作品をじゅうぶんに読みこなし、自分の感想としてまとめあげている。▽学年相応の

感動を叙述している。

などと審査委員が選評を述べています。

結果は、次のとおりです。

（敬称略）

★最優秀賞

尾形裕子（徳島県山川中三年）

★優秀賞

一年・しみずさとる（静岡県西奈小）▽二年・花むれつよし（竜門小）▽三年・堤佳那（福岡県二日市北小）▽四年・宮内春奈（静岡県長田西小）▽五年・工藤理可（徳島県今津小）▽六年・有園愛（鹿児島県田上小）▽中一年・諦乗真紀（三重県三重大学附属中）▽中二年・左村武嗣（福岡県諏訪中）▽中三年・小原恵子（秋田県横手南中）

★特選（以下、町内関係者のみ記載）

一年・のまこのみ（柁城小）▽三年・隈原友幸（柁城小）▽六年・幸加木理恵（加治木小）

★入選

一年・かみしろゆきほ（竜門小）▽二年・いちきさわ子（柁城小）▽三年・大宮路香葉（永原小）・ますだまみ（柁城小）▽四年・高良理恵（柁城小）▽中一年・山崎梓（加治木中）▽中二年・白石陽子（加治木中）

（作文は次ページ）

秋の叙勲

おめでとう

ございます

勲五等 瑞宝章

畠田輝保さん

畠田輝保さん

畠田輝保さん（株南電工会長）

は、昭和二十一年宮之城町に復員して一人で畠田電気工事を設立以来、三十二年には南日本電気工事（株）と社名変更して鹿児島市に進出。三十四年十月に九州電力の委託工事店として加治木町に営業所を出すとともに移り住み、この間、昭和四十二年から五十四年まで加治木町議を三期経験。平成二年再び社名を（株南電工）に変更、現在に

至っています。

一方、昭和五十五年には県電設協会会長、平成四年に（株）日本電設工事協会理事に就任。県内外の業界の指導者として、後継者育成や業界の地位向上に幅広く活躍、各界から厚い信望を寄せられています。この授章に畠田さんは「身に余る光栄です。これも業界に支えられてきたたまものと感謝しています」と嬉しそうに話していました。

恒例の秋の叙勲が十一月三日発表され、加治木町内から垂ノ口の畠田輝保さん（七十歳）が勲五等瑞宝章、豊町の泊公男さん（七十三歳）が勲六等単光旭日章をそれぞれ授章されました。

勲六等 単光旭日章

泊公男さん

泊公男さん

泊公男さん（七十三歳）は昭和二十一年四月に入来町に復員、二十三年十一月に当時の国立加治木療養所（昭和四十六年に帖佐療養所と合併し南九州病院と改名）に就職。以来、同病院に三十三年間勤務され、五十六年六月に定年退職されました。

その間、三十四年に衛生検査技師国家試験に合格、四十六年には臨床検査技師国家試験にも合格、

それから検査技師長としての手腕を遺憾なく発揮、昼夜を問わず検査業務に精励されました。泊さんは温厚篤実な人柄で、今回の叙勲に「突然の吉報におどろいています。検査業務を行ってきただけなのに……これも町民の皆様や先輩後輩の皆様のお蔭で、身に余る光栄です」と柔和な目元をくずし、その栄誉に感無量の様子でした。



棕鳩十文学記念館

読書感想文

コンクール

最優秀賞

にせものの英雄

徳島県

山川中学校三年四組

尾形裕子

「出会い」の

大切さを学んで

私は今、中学三年生。十四歳の今日まで、たくさんのお出合いがありました。そのいくつものお出合いが、今の私をつくってくれました。

正彦も同じです。たくさんのお出合いがありました。自然との付き合いを教えてくれたジイマ。まっすぐ生きる強さを見せてくれた旅役者の娘。にせものの英雄を演じている彼に、小言なんか言わず、感動する本とお出合わせしてくれた市瀬先生。正木先生とのお出合いは、正彦に本当の友達としての出会いを与えてくれました。

その出会いの一つ一つの積み重ねが、臆病者と言われた彼を、徐々に徐々に感性豊かな人間に育て上げていったのです。人との触れ合い、自然との触れ合いによって、彼は自分自身を築きあげていきました。臆病者から、にせものの英雄を経験して本物の英雄へと。

私は、正彦の経験したお出合いを大きく二つに分けることがで

きると思います。一つは、ジイマを通して経験する自然との出会いです。もう一つは、市瀬先生と正木先生を通して経験する本との出会いです。この二つの出会いが、家の土台と柱のようになって、正彦を成長させたように思っています。

正彦の人間の土台をつくったのは、ジイマとともに遊んだ自然です。正彦は、幼い時、何をやらせても、「不細工で、臆病者で、成績もよくない」一少年でした。でも私には、ただの臆病で、弱虫には思えませんでした。少年期は誰でも臆病な心をもっているものです。他の少年は、仲間といっしょにいて臆病をかくしているだけのように思いました。正彦は、一人で行動しているからそれが目についたのです。仲間依存せず、自分でつまづいたり、もたもたしながらも、自分で行動している正彦に何か芯の強さを感じました。

この強さがなかったら、個性のない少年で終わっていたかもしれません。また、「にせものの英雄」で満足して終わっていたかもしれません。自然の中で養われた感性は、正彦の中で大きく根づいているように思われました。

この土台の上に、正彦の人生に関わってきた出会い、市瀬先生と正木先生。

市瀬先生が手渡した本『ハイジ』との出会いは、正彦が生まれ変わる時だったのです。ハイジの純白の雪みたいな心に、正彦は「素直な気持ち」というのはなんて美しいものだろう。と思うのです。自分も「清く美しく生きたい。」と心の底から思う姿に、自然の中で育ったハイジと、ジイマとともに自然の中でのびのび遊んだ正彦が重なって見えました。ジイマとともに触れた「大自然」の経験があるからこそ、『ハイジ』との出会いが生きたのです。

それは、後の正木先生がお出わせくれた本、エマーソンの『自然論』についてもいえます。幼い頃の自然との出会いがあったからこそ、自分なりに解釈ができたのです。

この正木先生との出会いは、哲学や文学の世界と結びつけ、彼の人生を方向づけるとともに彼に、今までになかったものを与えてくれました。それは、心から分りあえる友です。本との出会いがあっても、友との出会いがなければ、彼の人生は寂しいものになっていただろう。これらの出会いは、彼を大きく成長させただけでなく、彼の人生をも変えさせました。

このような出会いが、私にも、今から三年ほど前にありました。私はその時、犬の散歩をしてい

ました。その日は、いつもとは違う道を通りました。すると、一人のおばあさんが「この犬かわいね。」と言って、犬をうれしそうになでてくれました。この時、おばあさんという人な話をしました。

これをきっかけとして、毎週一回、そのおばあさんの家に行き、たくさんのお話をしようになりました。その時、私は初めて、人の心の中の優しさやあたたかさを感じました。たあいな話でしたが、おばあさんは、私の話を真剣に聞いてくれました。また、いろいろアドバイスをしてくれました。そのおかげで、何度助けられたことでしょうか。

私は、この出会いがあったからこそ、今の自分があると、はっきり言えます。正彦と同じです。

自然と出会い、人に出会い、本に出会う。それらが、正彦の中で一つの力となって、彼を成長させていきました。出会いによって、彼は、偽物から本物の英雄へと変わることができたのです。一步一步本当の自分へと。

私も、まだまだ本物の自分をつくっていません。これから、いろんな出会いを経験し、その出会いを生かしながら、自分自身を築きあげていきたいです。本物の自分をめざしながら、今という時を、一つ一つ大切に生きていきます。

かじき 和牛肉

飛ぶように売れた



第十五回かじき秋まつりは十一月二十八日町営体育館とグラウンドで行われ、終日おおぜいの人でにぎわいました。

今年の目玉は、市来原の内村勝男さん提供の「かじき和牛」の精肉試食即売。焼肉の匂いに誘われて試食した人たちは、一様に「こゝろたうんめ、（これはうまい）やはり地元産じゃ」と舌つづみを打ち、それぞれ肉パックに手を伸ばしていました。

この日は、たくさんさんのテントが

かじき秋まつり

グラウンドを取り囲んで林立。どの店もおおぜいの人ばかりでにぎわっていました。冷たい木枯らしの吹く中、グラウンドで柁城小のマーチングが披露されると、見事な統制演技に周囲からたくさんの拍手が湧いていました。

そのほか、MBCカラオケ大会やいろいろな催し物、展示即売会などが行われましたが、晩秋を飾る祭として、おおぜいの人を楽しませていました。



みんな上手だなあ……



入賞者のよろこびの顔

力作がいっぱい

町美術展

第三十五回町美術展は十一月十二日から十五日までの四日間福祉センターで開催され、会場には小学校四百七十四点、中学校二百四十点の合計七百十四点が展示されました。

「今年は三十五回という節目の年に当たりますが、これを祝うべく甲乙つけがたい力作の山で、大変うれしく思います」とは、ニマリ顔の審査員評。見学に訪れたかたがたは、優秀作品を目の当たりにし、芸術の世界に引きずり込まれたように、一つひとつ丹念に見入ってはうなずいていました。

〔町美展特別賞〕

町長賞

毛筆 山崎征太郎（加中一年）
デザイン 福島えり子（加中三年）

町議会議長賞

毛筆 田代遙奈（柁城小四年）
絵画 内村美香（竜門小四年）

町教育委員会賞

毛筆 伊藤 令（加中三年）
工作 山下大輔（加養護学校）
南日本新聞社賞
毛筆 竹下美幸（柁城小六年）
工作 小宮路洋平（錦江小三年）

町商工会賞

毛筆 浜崎麻未（柁城小五年）
絵画 穂森勇樹（加中二年）

農協賞

毛筆 田ノ上明菜（柁城小三年）
工作 石澤直実（加小一年）

南日本書道会賞

毛筆 蔵蘭有加里（加中二年）
硬筆 坂元耕太郎（柁城小二年）
硬筆 大塚宏恵（錦江小一年）

始良地区美育協会賞

工作 福元智博（竜門小二年）
デザイン 石原朋大（柁城小五年）
彫塑 福森靖久（加中一年）

〔郷土絵画ロータリー賞〕

ふくなが かつや（加治木幼）
鹿子田 晃人（加小五年）
久保田奈央子（加中二年）

であいふれあい展

「であいふれあい展」は、町美術展と合わせて十一月十三日と十四日の二日間開催されました。

二階の町美術展からの流れで、一階会場に展示された身体障害者や心身薄弱者の方の力作を一目見

て会場は、「まあ、こんなに上手に描けて……」と絶賛の声しきり。みんなは、その一つひとつの作品こめられた彼らの心情を読み取り、その不遇に心を傷めていました。

表彰

おめでとう
ございます

社会福祉部門

〔始良郡社会福祉大会表彰〕

月野木博さん

社会的、経済的及び身体等の障害を克服して自立更生した。

郡山容子さん

家庭、地域社会において、その篤行が特に地域の模範と認められた。

〔社会福祉施設勤続功労表彰〕

★県社会福祉大会（15年以上）

上野智恵子さん

かずみ保育園

増田愛子さん



上野智恵子さん

★厚生大臣賞（20年以上）

大村ミネ子さん

加治木望岳園



増田愛子さん

厚生大臣賞を受賞

田中かまぼこ店



ふるさとの味 揚つく
さつまが産んだ豊かな風
大切な人にお届け！
全国発送承ります。

ツケアゲで知られる田中かまぼこ店（代表・田中茂樹さん）が十月二十二日、食品衛生表彰の会で食品衛生優良施設として厚生大臣から表彰されました。

田中かまぼこ店は、昭和二十年父親の忠志さんが加治木に創業。

以来、衛生面には十分な注意を払い、閉店後は毎夜、倉庫や店内のオゾン殺菌を施してきました。

県内から三店の表彰に茂樹さんは「名誉なことです。食べ物ですから、衛生面を第一に考えています。」とよろこんでいました。



大村ミネ子さん



月野木博さん・郡山容子さん

端山自治会が県知事賞

国民年金事業優良団体

端山自治会は十一月二十九日、鹿児島市城山会館で開催された国民年金事業優良団体等表彰式で、納付組織の部でみごと県知事賞に輝きました。

端山自治会は、昭和四十七年に社会保険庁長官表彰、平成元年には厚生大臣表彰、今回は県知事表彰を受けています。

彰を受賞。この相次ぐ表彰は、会員の納付率アップに一段と拍車をかける好材料で、その納付組織力はいよいよ強さを増しています。ちなみに、町平均の国民年金納付率は九一・七%ですが、端山自治会は九四・六%と町の最高率を誇っています。

「国際貢献に一役買いたい」

湯田広一さん

青年海外協力隊員に参加

湯田広一さん（三十一歳・竹下出身）が青年海外協力隊員に選ばれ、平成五年度第二次隊の赴任に伴い十二月三日、加治木町役場を表敬訪問しました。

湯田さんは、東京の町田市立国際版画美術館に勤務中、この青年海外協力隊員に応募してみごと合格したもので、鹿児島県からの合格者は五人。赴任先はタンザニアで、期間は二年間、任務は自分の専門である美術（絵画、木彫）の指導で、このほどの訓練を終えたばかりでした。

現地への出発は十二月七日ということでしたが、加治木町からの参加は初めてとあって、下楠蘭助役が「しっかりがんばってください」と激励すると、湯田さんは唇

をひきしめ、「はい、国際貢献に一役買いたいと思います」と力強く答えていました。



がんばってください

自分の湯呑みができた

親子史跡めぐり

町文化財ウォッチング「親子史跡めぐり」が十一月二十三日、六家族十五人の親子が参加して行われました。

この日は、県指定文化財の竜門司坂や龍門司焼古窯を見学。龍門司焼企業組合では、理事長の川原輝夫さんから陶器作りの工程をく

わしく教えてもらい、その後、実際にロクロを回して、家族で一つずつ湯呑みを作りました。

ヒヤッとする土の肌触り、それが徐々に手に馴染むと、子どもたちはおもしろそうに土をこね、その感触を楽しみながら自分の湯呑みに挑戦していました。

哀惜の念ふたたたび

町戦没者追悼式

町戦没者追悼式は十一月十九日福祉センターで行われ、遺族代表の三十九人をはじめ、宇都宮町長や来賓の方々が戦没者の尊い御霊に献花を捧げました。

今回は初めての試みとして、国分自衛隊の吹奏楽隊を招待。正装した隊員らが、その姿もりらしく

鎮魂歌をおごそかに披露すると、遺族らはその素晴らしい演奏に聞き入っていました。

その後、遺族のかたがたが花を捧げましたが、みんなは御霊の前にふたたたび哀惜の念を強くしたのか、その表情は深い悲しみにくれています。

Aクラス優勝 加治木友クラブ

秋季女子バレー大会

町バレーボール協会主催の秋季女子バレーボール大会が十一月十四日、十チームが参加して町営体育館で行われ、Aクラスは加治木友クラブが優勝しました。

結果は、次のとおりです。

Aクラス優勝 加治木友クラブ

二位 加治木クラブ

三位 竜門クラブ

Bクラス優勝 ハッピーコスモス

二位 明日香クラブ

三位 カトレア



Aクラス加治木友クラブ



わあー、ぬるぬるするー



▼忘年会盛りである。この日はやはり、一滴も飲めず、かねて宴会に遠慮する人もお内裏様のよう

に「つくねん」と座り、呑兵衛さんのろれつの回らない毒舌に耐えている。これは社会通念上、一つの公的宴会になっているからだろう。

▼この日はやはり、酔っぱらいの天下だ。全然飲めない、覚めた人の目で見ると酒の世界。

酒はのめのめ飲むほどに だけど酒は……ほどほどに

何とバカげたことを、何とふざけた真似を、何で些細なことでもケンカを……などなど。まるで子供の世界だ。酒席に加わった方がいいが、酔っぱらいたちの話をまともに間に受け、口を差しさむと、「難しいことをいうな、冗談でも言え」と怒られる。それでハハーン、バカ話をすればいいのかと、一席ぶちまけると、「何をバカなことを言うのか」と、また怒られる始末だ。自分たちの話はまともだと思っているのか、ホトホトまいてしまう。

▼ヤマイモ掘りという。いわゆるクダを巻く人だ。か

ねてはダンマリをきめ、神様のようにおとなしく振る舞っているが、いったん酒が入ると、関を切ったように相手の悪口や、社会批判を始める。その吠えかたが違う。まるで、台風のような勢いである。その点、まさに酒は狂い水だ。

▼酒は百薬の長という。適量の酒は体内の臓器にうるおいと活性を促すのか、飲めない人でも少し飲むと、ほんのり桜色に紅潮する。血行が良くなるのはい一目りよう然だ。

しかし、免疫のある人（名の通った酔っぱらい）の血液の流れは、今年八月に襲った豪雨の鉄砲水のようにものすごいだろう。その奔流は、脳にある理性の扉をぶちこわし、己の激情だけを乗せて突っ走るのに違いない。

▼酒はのめのめ飲むほどに、また、酒でも飲まないという切れないという。これも一つのストレス解消法で、溜まったうっぶんを晴らす作用もあり、また気分も良くなる。

だが、酒におぼれてはいけません。好きな人でもほどほどにして、酒とは友だちのように長くつき合ってほしいものである。

国民健康保険税は

納期内に納めましょう！

病気やケガは突然やってくる。国民健康保険（国保）はその万が一のときに備え、加入者みんなが保険税を出し合って助け合う制度です。

わが国は国民皆保険制で、他の健康保険加入者や生活保護受給者以外は、すべての人がこの国保に加入することが法律で定められています。

そのため国保の加入者すべて

国保に入るとき、やめるときは

十四日以内に届出を！

▼届出が遅れると

① 保険税をさかのぼって支払うこととなります。

※保険税は届出た日からではなく、資格のできたその月分から納めます。

② 医療費を全額自己負担しなければならぬときがあります。

③ 後で医療費を返さなければならぬときがあります。

※お問い合わせは
保険税関係……

○ 税務課課税第一係
資格・給付関係……

○ 保健衛生課国民健康保険係

届出は、かならず
14日以内におこないましょう。



みなさん

本を読んでいますか

(2) わかば親子読書会

(一) わかば親子読書会

代表 永登英利子
私たちの親子読書会は、今から八年前、加治木幼稚園で結成され、子供たちが柁城小へ入学したとき、「このまま終わらずに小学校でも続けたい」との願いから、小学校へと引き継がれ、（そのとき「わかば親子読書会」と名づけた）一年生を対象として発足しました。結成当時、校長先生にお願いし、先生方の協力で、子供たちに呼びかけたところ、六十余名が集まりました。現在は、全学年を対象として



子どもたちは楽しそうに…

会員四十名。活動は、月二回の読み聞かせと親会を中心に、発表会、クリスマス会などを実施しています。

読み聞かせは、授業の関係から、一、二年生が対象で、毎月第二、四の水曜日、二時三十分から三十分程度、当番を決めて行います。本の読み聞かせだけでなく、紙芝居や指あそびなども行い、会員の親三、四名がそれにあたっています。

クリスマス会は、普段の読み聞かせに來れない三年生以上の会員もまじえて、プログラムをつくり、手作りのクリスマスグッズを飾りつけ、いつもはできないブラックシアターもとり入れて、思い出に残る会になるよう演出しています。

発表会は、一年間のしめくくりとして、三月に実施し、子供たちによる劇や手作りの大型紙芝居、ブラックシアターなどが披露されます。発表会前になると、そのための準備や練習が、親子で活発に行われます。

月一回の親会では、行事の計画・運営方法・話し方などについて、いろいろな資料を持ち寄

って、話し合い研修します。その一環として、今年は、会員の親たちを中心に希望者を募って「布の絵本づくり」を習いに出かけたり、「エプロンシアター」や「からくり絵本」を作ったりしました。このように親会では、母親自身も楽しむように、こころがけてみました。

以上の活動の外、全校への昔話放送を行っています。月一回、給食の時間、二十分程度をこれにあてています。給食をとりながら、ゆっくり本を親しんでもらおうとはじめました。何名かの親たちが交代で行っていますが、今後も続けてみたいと思っています。

※ わかば親子読書会は、平成五年、県図書館から表彰を受けました。

特別寄付

一金 四三、四六一円
石野自治会の石野重夫さんが、三年続けて今年も社会福祉事業に御寄付くださいました。
ありがとうございます。



本 十の 鳩 椋 (28)

モモちゃんとあかね

「椋鳩十全集17」ポプラ社(八〇二円)

「ポプラ社文庫A14」ポプラ社(四〇二円)

「椋鳩十・動物どうわ3」ポプラ社(七八〇円)

椋先生の娘さんがお嫁に行かれるときに「永久に記念になるような宝物」のかわりに書かれた作品。昭和四十六年に出版されました。あかねさんとねこのモモとの人間にもまざる愛情物語が鋭い観察眼をとおし、きめ細やかに語られています。

作者が娘あかねさん(生後四か月)を抱いて鹿児島島の波止場を散歩していたとき、そこでオランダの水兵からもらったねこ(桃の花の咲くころであつたらモモと命名された)。

モモとあかねの幼い者どうしは、すぐ仲よくなった。そして、モモはあかねの手まくらでなければ寝ないほどになつき、モモにとつてあかねのふとんは自分の城であり、あかねは自分のものであるといった人間にも似た感情をあらわすようになる。

また、あかねもモモがかわいくてたまらないようで、つきつきりでモモのせわをし、モモをあいにて、人間と話をするようにいろいろとおしやべりするのであった。

このようにして十三年そして十七年。モモの子どもや孫、そ

のまた孫の子と、七匹のねこの動きを適確にとらえ、特にモモに焦点をあてて、あかねとのかわりをまじえながら、克明に述べられています。

あかねが三日ばかりしんせきの家へとまりがけでいったときのモモのようす、行儀のよかつたモモが、とつぜん皿の上の魚をくわえてにげだし、つぎの間にかけこんだときのこと、そして、すっかり年をとりばけてしまったモモが、死期をかんじあかねのそばにいき、息をひきとる場面など、熟読すればするほど、読み手の心をうつ作品であると思います。

昭和四十五年に出版された「マヤの一生」と、この「モモちゃんとあかね」とを合わせて、作品の優秀さが認められ、第一回赤い鳥文学賞(「赤い鳥の会」主催、世話人代表坪田譲治)を受けられたのです。従つて、この作品は、椋先生の代表作の一つといえることができると思います。中学年向。

(解説)

椋鳩十文学記念館

副館長 土田 眞資

加治木文化財ウオッチング(13)

鳳山軒跡

私たちが、ふだん何げなく使っている「錦江湾」という名称に、

どんな由来があるのかご存知ですか。前回説明した黒川岬に関係がありますから、今月はこのことについて紹介しましょう。

島津義弘の朝鮮出兵に随行して、功績を残した鳳山和尚というお坊さんが、反土に椿窓寺を開き(今では墓地だけが残っています)、その後、黒川に隠居して庵を造り住みました。これを鳳山軒といいました。

記録には「鳳山軒は近くに洞窟があり、この斜面から清水が湧く。川に面し山を背にして、千人が座れるほど広い。ここは岩の間に草花が咲き、遠くには桜島や吉野、五老峰、蔵王岳などに囲まれ、花の頃はひとしおきれいだである。」と書かれています。

鳳山和尚は、島津義弘や家久の信望が厚く、二人ともよく鳳山軒に遊びに来たといわれ、加治木島津六代久徴(錦水)が建てた黒川記という碑文に

浪のおりかくる錦波 磯山の梢にさらす花の色かな
という家久の和歌が記されている

ます。

黒川記には、「岬の斜面に咲いている花が川面に写り、特に早春頃の波は錦の紋を作りだす。家久の歌に『錦波』の二字が使われているから前の川を『錦江』と呼ぶ。」と書かれています。つまり、この入江の水面に写る花の色の美しさが、やがて「錦江湾」という名称に転じていったのです。

加治木島津三代久季は、この黒川の周囲に数、白本の桜を植え、その美しさから「桜川」とも呼ばれていました。また、黒川記を書かせた久徴(錦水)の名前もこの地に由来するのです。

その後鳳山軒は、竜門司坂の近くに移され、やがて荒廃しましたが、黒川のその跡に行くと石垣や広い平坦地が今でも残っていて当時をしのべます。

今では、すっかりその景色も変わりましたが、黒川山の斜面には洞窟状の岩陰があり、今でも岩清水が岩肌を濡らして、ポチャーン、ポチャーンと四百年変わらざたり落ち、それはまるで栄枯盛衰や時代の変化を刻む水時計のようです。

無料 人権法律相談

鹿児島県方法務局加治木支局のほか、次の人権擁護委員の方々が、自宅でも御相談に応じています。

お気軽にご相談下さい。

秘密は、固く守られます。

郡山政弘 木田一六一三三一

(63-3585)

中摩多美子 反土二七五六

(62-2768)

篠崎利治 木田四二四二

(63-5175)

記事訂正とおわび

十一月号の記事中誤りがありました。深くおわびし訂正します。

(敬称略)

三「教育委員会委員」中

寺迫慶子委員↓寺迫

竜門小学校↓中学校

東郷中学校↓下東郷

資源ゴミ回収の 新聞とチラシ

(は)

別々にヒモを!



親子映画鑑賞会

〔福祉センター〕

日時 1月8日(土) 14時

映画 ①走れ!

ぼくの小さな友だち

②ドナルド・ダックと魔法使い

2月12日(土) 14時

映画 ①山の小平太

日時 2月12日(土) 14時

② 福は内! 鬼は外!

〔椋鳩十文学記念館自由の館〕

日時 1月23日(日) 10時

映画 ①あははだれ

②しあわせの王子

③カチカチ山

日時 2月27日(日) 10時

映画 ①雪の下静かなお話

②泣いた赤鬼

③宇宙っ子の冒険

主催 加治木町親子映画会

※無料です。児童・生徒・親子多数ご鑑賞ください。

(都合によりフィルムを変更することがあります。)

町土木作業員の募集について

募集について

町では、次のとおり、土木作業員を募集しています。

一、性別 男子

二、人員 若干名

三、採用条件

平成5年12月1日現在で、満18歳以上満60歳までの健康な者

四、雇用条件

① 雇用、社会保険等は一切ありません。

② 期間

毎年4月1日から翌年3月31日までのうちの11か月間。

(1か月当たり20日以内)

③ 作業時間

午前8時30分～

午後5時まで

④ 作業内容

町道の維持補修、草払い等の軽作業

⑤ 賃金

月額、毎月末日までの分を翌月支給

五、応募の受付

希望者は、次の書類を平成6年1月21日(金)午後5時までに、加治木町役場総務課庶務係に提出してください。

(1) 履歴書、身上書(写真を必ず添付) 1通

※ 用紙は総務課にあります。

六、問い合わせ先 町役場土木課

(☎六二二二二一内線二二一)

うぶ声



出生届

福留 亜輝

堂森 俊賢

井上 拓海

福蘭しより

竹下 航平

春田 尚香

今塩屋拓陽

崎山 歩

橋口 香穂

川越 未来

黒木 恵利

伊藤 涉

久保祐里奈

田崎亜耶香

北田阿佐美

山下奈緒美

脇園 寿大

田中 聖也

▽十一月二十日までに住民台帳に記載された分を掲載いたしました。

保護者

一博

勝弘

浩二

秀己

哲哉

磨

道朗

透

健一郎

久永

三郎

光訓

牧夫

勝成

正信

誠

健二

郁文館住宅

貴康

原ノ門

中浜

蔵王団地

東塩入

郁文館住宅

小鳥

原ノ門

赤坂

中福良東

上浜

郁文館住宅

新町

春日団地

空港団地

札立

自治会

東塩入

東塩入

空港団地

春日団地

新町

郁文館住宅

上浜

中福良東

原ノ門

赤坂

小鳥

原ノ門

東塩入

郁文館住宅

中浜

蔵王団地

健二

郁文館住宅

貴康

原ノ門

中浜

蔵王団地

東塩入

郁文館住宅

小鳥

原ノ門

赤坂

中福良東

上浜

郁文館住宅

新町

春日団地

空港団地

札立

平成6年1月在宅医表

1	大井病院	内科・外科 加治木町本町141 ☎63-2291
2	加治木温泉病院	内科 加治木町木田4714 ☎62-0001
3	大井病院	内科・外科 加治木町本町141 ☎63-2291
9	壱岐医院	内科 溝辺町有川812 ☎59-2019
15	ザ王病院	内科・胃腸科・循環器科・理学療法科 加治木町反土2151-1 ☎62-4611
16	徳永医院	内科・皮膚科・小児科 溝辺町麓1009 ☎58-2302
23	鬼丸小児科	小児科 加治木町新生町127 ☎62-0308
30	松本外科	外科・胃腸科 加治木町木田724 ☎63-1911

※ 診療時間は午前9時から午後5時まで。(原則として)
※ 当日の往診ならびに緊急以外の受診は御遠慮ください。
日曜・祝日 歯科救急診療 10時～15時 郡歯科医師会館1階保健センター (0995-58-4388・溝辺町空港近く)

御寄付

香典返しのかわりに御寄付をいただきました。厚くお礼申し上げますとともに、故人のごめい福をお祈りいたします。(内は故人)

五万円 楠園 今西國子(夫 寛吉)

五万円 下新道 本長谷 昇(妻律子六)

二万円 萩原 出水光流(妻 ツネ六)

五万円 下浜 木佐貫秋治(妻ハヤセ)

二万円 今町 千田フキエ(夫信義七)

三万円 垂ノ口 鶴 カヅ(夫百千代六)

五万円 岩原西 新原徹朗(父 文雄八)

二万円 弥勒 湯川清美(姉 敏子七)

五万円 西諏訪 春田睦子(夫 幾郎七)

五万円 永原 内村利夫(母 ヨシハル)

五万円 萩原 市未明(母 コト九)

三万円 天神 武田スメ(夫 次夫七)

五万円 下新道 本長谷 昇(妻律子六)

五万円 向江町 田中ミツ(夫 高雄七)

五万円 西ノ原 澤崎ヒデ(夫 豊二九)

五万円 柳田 竹下利男(父 利通四)

三万円 茶碗屋 川原啓司(母フチエ九)

二万円 岩原西 池田キクエ(夫 亨七)

三万円 須崎 川原貞孝(母シツエ七)

五万円 東塩入 小濱氏宏(母 ワカ九)

五万円 弥勒 竹下カツ(夫 秀雄八)

三万円 楠園 今西國子(夫 寛吉)

▽十一月二十日までの御寄付を掲載いたしました。

(年齢は満年齢)